

## 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

### 事業名 岐阜DMA T 隊員養成事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療整備課 医療整備係 電話番号：058-272-1111(内3238)

E-mail：c11229@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,588 千円 (前年度予算額： 3,800 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,800	0	0	0	0	0	0	0	3,800
要求額	3,588	0	0	0	0	0	0	0	3,588
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

・大地震や航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に駆けつけ、医療活動を行う災害派遣医療チーム(DMA T)の整備を行っている。

・原則として、厚生労働省DMA T事務局が行う研修の受講により日本DMA T隊員の資格を取得することとなっているが、この他に、都道府県が独自に行う研修により、県内での出動を想定した都道府県DMA Tの資格を取得することができる制度となっている。

・厚生労働省DMA T事務局が行う研修は受講枠が少なく、県内のDMA T数は横ばいの状況である。発災が予想される南海トラフ地震等においては、他県からの支援も多くは望めないことが見込まれることから、県として研修を実施し、岐阜DMA T隊員を独自に養成することで、県内における継続した医療支援体制を確立する必要がある。

・なお、県で研修を実施することにより、厚生労働省DMA T事務局が行う研修の枠も増加する制度設計とされており、日本DMA T隊員の増という副次的効果も望めるところ。

### (2) 事業内容

岐阜DMA T 隊員養成研修(1.5日研修)の実施

### (3) 県負担・補助率の考え方

県の災害時における医療支援体制の確立のため、県独自のDMA T養成研修を実施するものであり、県負担は妥当。

### (4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	767	研修講師謝金
旅費	1,233	研修講師費用弁償
需用費	224	研修消耗品費、会議費
役務費	45	研修資料郵送料
使用料	1,319	研修会場借上料
合計	3,588	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ

岐阜県地域防災計画  
第２章 災害予防  
第２０節 医療救護体制の整備

（２）国・他県の状況

令和６年度の国によるアンケート調査時点で、３１都道府県において、都道府県によるDMA T養成事業が実施されている。

（３）後年度の財政負担

岐阜DMA Tの活動が続く限り実施。

（４）事業主体及びその妥当性

DMA T人材確保は計画上も重要な施策として位置づけられており、県が経費を負担することは妥当。

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

1. 5日研修を実施し、岐阜DMAT隊員の養成や確保を図る。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R )	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
①岐阜DMAT 隊員の要請	0 (R6)	0	30	30	210	0%

### ○指標を設定することができない場合の理由

医療機関の計画に基づく施設整備に対する補助であるため、目標の設定ができない。

### （これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>
令和5年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>
令和6年度	<p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>

## 2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- 3: 増加している 2: 横ばい 1: 減少している 0: ほとんどない

(評価)

3

DMA T 隊員の養成や確保につながるものであるため、事業の必要性は高い。

- 3 : 期待以上の成果あり  
2 : 期待どおりの成果あり  
1 : 期待どおりの成果が得られていない  
0 : ほとんど成果が得られていない

(評価)

- 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている

(評価)

(今後の課題)

- 1.5日研修を受講したローカルDMATが、局地災害の際、適切な医療救護活動が行えるよう、日本DMAT資格保有者とともに、継続的な訓練や研修等を実施する必要がある。

(次年度の方向性)

- 災害派遣医療チームは、災害時の急性期を担う重要な組織体制であるため、今後も当該事業を継続していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント  
又は事業名及び所管課  
組み合わせる実施する理由  
や期待する効果 など

【○○課】